

日本性科学会 ニュース

第32巻 第2号

平成25年(2013年) 6月

発行人: 大川 玲子 印刷所: (株) 絢文社

第33回 JSSS 学術集会 2013年9月15日(日) 9:30 ~ 16:30

性科学から性哲学へー性科学の守備範囲再考ー

会場: 横浜市社会福祉センターホール 横浜市総合福祉センター 4階他 (JR・地下鉄桜木町駅2分)

〒231-8482 神奈川県横浜市中区桜木町1-1 TEL: 045-201-2060

会長講演: 座長 菅 沼 信 彦

対比と相同, グラデーションとしての性

早乙女 智 子

特別講演: 座長: 平 原 史 樹

仏教哲学からみた性ー仏典は性をどう語ったかー

前 谷 恵 紹

シンポジウム I 「生殖に直結しない性」の多様性

座長: 東 谷 優 子

1) 生殖を考えていない男性ED

今 井 伸

2) GID の性行為

松 永 千 秋

3) 妊娠しない時期のセックスレス

堀 口 貞 夫

4) CSW の性の健康

東 優 子

シンポジウム II 性被害・加害と SM の世界

座長: 荒 堀 憲 二

1) 性被害者支援の立場から

丹 羽 咲 江

2) SM の中にみる愛と性

月 花

3) 性加害者の更生支援

定 本 ゆきこ

一般演題受付: 2013年6月1日~7月31日 演者・タイトル・連絡先・800字以内の抄録を FAX: 045-761-4111 (早乙女) または e-mail: kongo.tomow@gmail.com まで

参 加 費:

9月14日 JFS セミナー 3,000円 (学生 1,000円)

9月15日 日本性科学会 5,000円 (学生 1,000円)

9月14日~15日 JFS + JSSS 7,000円 (学生 2,000円)

9月14日 懇親会: 3,000円 (学生 2,000円)

懇 親 会: 2013年9月14日(土) 18:30 ~ 22:00

味の関所『弁慶』 横浜市中区港町3-13 TEL: 045-651-3643

「子守唄に見る愛と性」フルート演奏とトーク 吉川 久子

第33回日本性科学会総合事務局: <http://jsss-yokohama.blogspot.jp/>

神奈川県医師会神奈川県立汐見台病院産婦人科 早乙女智子 kongo.tomow@gmail.com

〒235-0022 神奈川県横浜市磯子区汐見台1-6-5 TEL: 045-761-3581 FAX: 045-761-4111

第14回 JFS セミナー 2013年9月14日(土) 13:00 ~ 16:30

日本の性のデフレーションー克服への提案ー

消極化する高校生・大学生の性行動と結婚意識

渡 辺 裕 子

性行動の国際比較と日本人の射精頻度

永 尾 光 一

性感染症におけるパートナー検査の現状と課題

堀 成 美

若年女性の性行動からみた STI の実態

今 井 博 久

中高年のセクシュアリティ

荒 木 乳根子 ほか

第4回 WSHD 記念イベント(無料) 2013年9月14日(土) 10:00 ~ 16:30

To achieve sexual health, picture yourself owing your sexual rights!

性の健康を達成するために, あなたの性の権利をイメージしよう

Vol. 32

№.
2

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853

LGB のアイデンティティの発達について

東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース 修士課程

大 野 諒 太

今回の研究会では、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル（以下、LGB と略記）のアイデンティティの発達について取り上げた。以下、その内容についてまとめる。

LGB の初期の研究は、そのアイデンティティの発達についての研究から始まった。主に米国における研究になるが、Cass (1984)¹や Troiden (1989)²の発達モデルでは、同性愛的な関心や行動をすることに気づき混乱する「混乱期」、同性を好きになる自分を受け入れ LGB コミュニティにおいて活動をする「受容期」、LGB として生きていくことに満足感を感じる「統合期」を経て、LGB としてのアイデンティティが発達していくと考えられた。

しかし、こうしたアイデンティティの発達では個の発達は分かりづらく、また必ずしもこのような直線的な発達をするとは限らないといえる。そのような批判をしたのが Mohr ら (2011)³で、LGB としてのアイデンティティは自分の性的指向についての感情や信念も含む多次元的な構成概念であり、多面的に発達していくと考えた。彼らは心理尺度を作成することによって、LGB としてのアイデンティティの発達を測定しようとした。

因子分析の結果、①「受容」②「隠そうとすること」③「混乱」④「内面化したホモフォビア」⑤「発達の困難」⑥「優越感」⑦「肯定感」⑧「中心性」といった、8つの因子（側面）があることが分かった。

この心理尺度の問題点としては、たとえば質問項目の内容が「私がどう思うか」といった視点によるものが多く、どのような経験をすることによって、LGB としてのアイデンティティを発達させているのか明らかにされていないことが挙げられる。

つまり LGB としてのアイデンティティの発達、すなわちセクシュアル・アイデンティティの発達は、心の中のアイデンティティの発達であると同時に、セクシュアリティに関係する様々な経験を実際にすることによって裏付けられ、発達していくものであると考えられる。

このようなセクシュアル・アイデンティティの発達に注目したものに、Rosario ら (2011)⁴の研究がある。この研究では、「同性に性的魅力を感じる」、「同性との性的ファンタジーを考える」、「LGB であるとラベリングする」といったアイデンティティの発達から、「同性と性行為をする」、「同性と付き合う」、「LGB であることをカミングアウトする」、「LGB コミュニティで活動を行う」といったセクシュアリティに関係する実際の経験が考えられている。

これまで LGB としてのアイデンティティの発達モデルは、しばしば段階や側面といった「質」として研究されてきているが、それらを「量」として測定しようとしたのが、先ほどの Rosario らの研究である。この研究結果によると、ホモフォビア（自分の中にある同性愛嫌悪）の減少、LGB としてのスティグマの減少、LGB コミュニティでの活動の増加、そしてカミングアウトによって他者から受容されること、といったことが LGB としてのアイデンティティが発達し統合されている状態であり、またメンタルヘルスがより高いことが明らかにされている。

臨床現場において、LGB としてのアイデンティティを発達させるべきかどうかは判断に迷うところではあるが、LGB としてのアイデンティティが統合されている状態は、混乱している状態よりもメンタルヘルスが高いことが明らかにされている。よって LGB を援助していく際には、アイデンティティの発達という視点は必要であるといえよう。

日本でまだ LGB の専門的援助についての報告は少なく、また LGB としてのアイデンティティの発達を量によってとらえた研究はなく、今後の研究が期待されている。

(注)

1 Cass, V. C. Homosexual identity formation: Testing a theoretical model. *Journal of Sex Research*. 20: 143-167. 1984.

2 Troiden, R. R. : The formation of homosexual identities. *Journal of Homosexuality*. 17(1-2): 43-73. 1989.

3 Mohr, J. & Kendra, M. Revision and extension of a multidimensional measure of sexual minority identity: the lesbian, gay, and bisexual identity scale. *Journal of Counseling Psychology*. 58(2): 234-245. 2011.

4 Rosario, M et al. Different Patterns of Sexual Identity Development over Time: Implications for the Psychological Adjustment of Lesbian, Gay, and Bisexual Youth. *Journal of Sex Research*. 48(1): 3-15. 2011.

日本性科学会総会議事録

日時：2013年5月26日 午後1時05分～午後1時30分
場所：東京慈恵会医科大学西新橋校 1号館5階講堂

阿部副理事長が議長を務めた。以下、同議長により進行。「出席者37名、委任状139名。合計178名で、会員数は319名なので総会が成立した」との報告があった。

議題1 2012年度事業報告

- 2012年度の事業報告が大川理事長からなされ、承認された。

議題2 2012年度決算の承認

- 学会とカウンセリング室に関して、2012年度の決算が村口理事より報告された。事務所の移転に関する経費について、大川理事長より補足説明がされた。
堀口貞夫監事・石津宏監事により監査がおこなわれ、問題がなかったとの報告があり、決算は承認された。

議題3 2013年度事業計画案の承認

- 第33回日本性科学会学術集会会長の早乙女智子先生より、開催予定の挨拶があった。その他の2013年度の事業計画案が大川理事長より提示され承認された。

議題4 2013年度予算案の承認

- 2012年度の予算案が村口理事より提示され承認された。ダイレーターについては、学会ではなく、ジェクス株式会社にて制作・販売することとなったことについて、大川理事長より紹介があった。

議題5 第34回日本性科学会学術集会会長選任

- 岡山大学の中塚幹也教授より会長としての挨拶があった。日程・会長は検討中である。

大川理事長による閉会の挨拶

〈総会資料1〉

2012年度(平成24年)事業報告

(2012年4月1日～2013年3月31日)

1. 第17回総会

日時：2012年5月20日 午後1時00分～1時30分
場所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校1号館5F講堂
出席者：33名 委任状：158名

2. 会員状況

会員数
2011年度末
正会員 325名 賛助会員 3法人 名誉会員 7名
2012年度末
正会員 319名 賛助会員 3法人 名誉会員 7名
年度内会員移動
入会員数
正会員 28名 賛助会員 0法人 名誉会員 0名
退会員数
正会員 34名 賛助会員 0法人 名誉会員 0名

3. 会の運営

- 1) 理事会 1回
- 2) 幹事会 11回

4. 学術集会開催

- 1) 第32回日本性科学学会
日時：2012年8月4日
場所：松江市・くにびきメッセ
会長：大川玲子(日本性科学会理事長)

5. 研修会、研究会の開催

- 1) 第41回性治療研修会
日時：2012年5月20日
場所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校1号館5F講堂
- 2) 第7回日本性科学会近畿地区研修会
日時：2013年2月17日
場所：大阪市・大阪市立大学医学部附属病院5F講堂
- 3) 症例研究会 6回開催

6. 学会雑誌、学会ニュース発行

- 1) 学会雑誌 1回発行 (vol.1 vol.2合併号)
- 2) 学会ニュース 4回発行

7. 資格認定制度実施状況

- 1) 新規資格認定数 セックス・カウンセラー 0名
セックス・セラピスト 1名
- 2) 更新資格認定数 セックス・カウンセラー 0名
セックス・セラピスト 3名
- 3) 有資格者数 セックス・カウンセラー 13名
セックス・セラピスト 34名
(2013年3月31日時点)

8. 関連団体との交流

- 1) 国内団体
(1) 日本性科学連合(JFS) 第14回性科学セミナー
アジア・オセアニア性科学学会をもってこれに
変える
加盟団体：日本性科学会・(株)日本家族計画協会・
(財)日本性教育協会・日本思春期学会・
日本性機能学会・日本性感染症学会

- 日時：2012年8月2～5日
場所：松江市・くにびきメッセ
- (2) GID（性同一性障害）学会第15回研究大会
日時：2013年3月16～17日
場所：埼玉：大宮ソニックシティ
会長：石原 理（教授）
- (3) がん性研究会
（第11回医療従事者向け：がん患者さんを支援するための研修会）
日時：2012年11月18日
場所：大阪市・北野病院講堂
- (4) セクシュアリティ研究会
中高年のセクシュアリティ第2回調査
- (5) その他

2) 国際学会

- (1) 第12回アジア・オセアニア性科学学会
日時：2012年8月2～5日
場所：島根・松江
- (2) 第15回アジア心身医学会
日時：2012年8月24～26日
場所：モンゴル：ウランバートル
- (3) その他
WAS 世界性の健康デーの一環としてセミナー開催
日時：2012年 9月 9日
場所：東京・ルークホール

〈総会資料2〉

2012年（平成24年）度決算

（2012年4月1日～2013年3月31日）

〈総会資料3〉

2013年度(平成25年)事業計画案

(2013年4月1日～2014年3月31日)

1. 学術集会開催

1) 第33回日本性科学会学術集会

日時：2013年9月15日

場所：神奈川県・社会福祉協議会ホール

会長：早乙女智子(神奈川県立汐見台病院産科副科長)

テーマ：

2. 研修会、研究会の開催

1) 第42回セックス・カウンセリング研修会

日時：2013年5月26日

場所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校1号館

5F 講堂

2) 第7回日本性科学会近畿地区研修会

日時：2014年2月(予定)

場所：大阪市立大学医学部附属病院5F 会議室

3) 症例研究会

年6回予定(奇数月)

3. 学会雑誌、学会ニュース発行

1) 学会雑誌 2回発行

2) 学会ニュース 4回発行

4. 資格認定制度の実施

5. 関連団体との交流

1) 国内団体

(1) 日本性科学連合(JFS) 第15回性科学セミナー

日時：2013年9月14日

場所：神奈川県・社会福祉協議会ホール

(2) GID(性同一性障害)学会

日時：2014年3月21日

場所：沖縄県那覇市・市町村自治会館

(3) がんと性研究会

(第12回医療従事者向け:がん患者さんの性を支援するための研修会)

日時：2013年12月1日

場所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校1号館

5F 講堂

(4) その他

2) 国際学会

(1) 性の健康世界会議

日時：2013年9月21～24日

場所：ポータアレグラ(ブラジル)

(2) その他

12th (WAS) World congress for Sexual Health よりお知らせ

すでにお伝えしているように、9月21～24日 ブラジル、ポータアレグラで開催します。<http://www.2013was.com/ingles/index.php> 大会会長で婦人科医/セックス・セラピストの Jaqueline Brendler はスペイン、オーストラリアに次いで3人めの女性会長です。

演題募集は終了ですが、登録費は7月5日まではやや安価です。ポータアレグラは、リオやサンパウロから南へ、2時間ほどの乗り継ぎですが、海に面した美しい街です。英語の通じにくい地域もあるため、イグアスの滝観光を含めたツアー(9/18～28 約40万円/登録費別・多少の個人変更は可能)を組みました。ゲストスピーカーの小貫大輔さん(東海大)が、ツアーを引率してくれます。来年のオリンピック、FIFA ワールドカップ開催を控え、経済発展めざましいブラジルを、体験しませんか。お問い合わせは、日本性科学連合(JFS)事務局 info@jfs1996.jp まで。

文責 大川 玲子

世界性の健康デー 9月4日 記念イベント

WAS(世界性の健康学会)が2010年に定めた啓発デーで、毎年9月4日となっています。約20カ国の世界各国の有志が、それぞれの国でイベントを行っており、日本でも2010年から毎年イベントを行っています。

性の健康:セクシュアルヘルスは基本的人権でありながら、正面切って語られにくいテーマです。学会から毎年テーマが決められ、それに沿って企画しています。今年のテーマは‘to achieve sexual health, picture yourself owning your sexual rights!’(性の健康を達成するために、あなたの性の権利をイメージしよう!(仮訳))です。

これまで9月4日ごろに大阪と東京・横浜で開催してきましたが、今年は9月14日(土)横浜で日本性科学学会学術集会と同時開催となりました。3連休の初日をこのイベントにあてています。文化祭のような楽しい企画をしています。ふるってご参加ください。

早乙女 智子

資格認定委員会より

日本性科学会副理事長(認定制度担当) 阿部 輝夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定、並びに更新規定(日本性科学会雑誌vol.1に掲載)に基づき、2013年度の新規資格認定並びに更新資格認定を行います。

尚、資格認定申請期間は、新規・更新ともに8月1日～8月31日です。新規資格認定希望者は、申請書類を日本性科学会事務局までご請求下さい。資格更新該当者には、事務局より7月中に更新申請書類を郵送いたします。

いずれの場合も資格認定規定を御熟読の上、ご申請下さい。御不明な点は学会事務局にお問い合わせ下さい。

(TEL 03-3868-3853 受付時間 月・水・金10:00～13:00)